

## FD 活動の報告

初 山 洋 介

日本語日本文化教育部門では、平成14年にFD班を設け、以後、現在に至るまで、日本語・入門講義の授業を担当する教員全員でFD活動に取り組んできた。さらに、平成16年には、留学生センターの委員会としてFD委員会を設置し、教員個々の教授能力の向上、授業の改善を目指している。

昨年度（平成18年度）は、新たに、「従来にもまして、FD活動を効果的に行うために、課題・テーマを明確にし、継続的かつ計画的にFD活動を行う」という基本方針を立てた。具体的には、教員各自が19年度から21年度の3年間にわたるFD活動の綿密な計画を立案し、継続的にFD活動を行うというものである。このような基本方針に基づき、昨年度は、教員各自が「FD活動計画書」（A4サイズ、2頁以内）を作成した。

平成19年度は、上記の活動計画に基づくFD活動の一年目に当たり、教員各自が計画に従ってFD活動を行った。さらに、以下の原則に基づき、各教員が「FD活動中間報告書」（A4サイズ、2頁以内）を執筆した。

### 「FD活動中間報告書」執筆の原則

1. 昨年度作成した「FD活動計画書」の19年度分の各項目（「活動の目標・狙い」「実施内容」「実施内容の評価方法」）に対応する形で書く。
2. 必要があれば、「20年度／21年度のFD計画の（部分的な）修正」を書く。

なお、各教員の「FD活動中間報告書」を一冊にまとめ、全教員に配布した。各教員の「FD活動中間報告書」のタイトルは以下のとおりである。

1. 初中級文法の効果的な教育を目指して
2. 中上級レベルと上級レベルの聴解授業の改善と教

材作成に向けて

3. 初級学習者に対するひらがな教育の改善の中間報告
4. 日本文化論教育の改善に向けて
5. 聴解能力の向上に役立つ指導法を探る
6. 話しことは教育の中での発音教育の再構築にむけて
7. 初級学習者の漢字の自立学習を促す方法を探る
8. 課題遂行能力ベースにもとづいた教室活動と評価活動の検討
9. 自立学習を促す漢字指導の試み
10. 「作文教育」の充実を目指して
11. 効果的な読解教材と教授法
12. 読解教育改善に向けて
13. 初級学習者に対するひらがな教育の改善の中間報告
14. FD中間報告
15. 初中級読解教材の改善
16. 「使える会話」の会話教育を目指して 1
17. 50音表を用いた動詞の活用形の導入と定着
18. FD中間報告書
19. 中級後半レベルの聴解の授業における事前準備と学習効果
20. 聴解教育の改善に向けての試み
21. 学生のレポート作成に対する効果的な指導法を探る
22. 50音表を用いた動詞の活用形の導入と定着
23. 会話授業とフィードバック技術の改善に向けて
24. 学習活動と評価を結合した教育を目指す
25. 言語学教育の改善に向けて
26. 初級日本語コースの漢字教育